

平成27年度 県立鬼怒商業高等学校自己評価表

目指す学校像	本県教育の目標・校訓をふまえ、地域社会の要望に応えながら、人間性豊かな個性の伸長を図り、教養ならびに専門的知識を高め、広い視野と適切な判断力、たくましい実践力を備えた、心身ともに健全な、国家社会の有為な人材を育成する。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p style="text-align: center;">平成26年度末に各部・各項目別に成果と課題について検討を加えた。</p> <p>教務部 ○学力の向上では、分かる授業を推進し、内容の充実を図ることにより、意欲的に学習に取り組む生徒が増加している。授業時間の確保には授業の振替やもらい授業が徹底してきたため自習の時間が前年度に比べて8%減少した。 ○心の教育に関しては、1年生生徒全員がボランティア活動を行い、地域に貢献する心や自己効力感を育むことができた。 ○広報活動については、ホームページの刷新を図り、学校や商業教育等の情報を提供している。また、学校説明会や中学生の体験入学及び出前授業等を実施することで商業教育のPRを行っている。さらに鬼怒商だよりを作成し、近隣の中学校や学習塾、卒業生がいる企業などに配布した。 【次年度への課題】 ○学習意欲の低い生徒への組織的・計画的な指導方法の探求、および、教師の指導力向上への研修の充実等が挙げられる。 ○ボランティア体験を活かして、地域の他のボランティア活動にも自主的に参加するような生徒を育成していくことである。 ○広報活動のさらなる充実を目指して取り組んでいきたい。</p> <p>進路指導部 ○進路指導については、各学年とも実施した行事が学年の生徒の実態と本校の進路状況を踏まえた啓発的・体験的な内容であったことと、進路に関する情報を生徒に適切に得させることのできる内容で大変効果的であった。進路決定率は就職・進学ともに100%である。 ○インターンシップについては、今年度29事業所の実習先に於いて83名の生徒が体験した。 【次年度への課題】 ○進路実現100%を目指すために日々の学習活動の工夫とコミュニケーションスキルとビジネススキルのさらなる向上が必要とされる。</p> <p>生徒指導部 ○問題行動の未然防止のための取組として講話・集会・学校生活アンケートを実施した。また、服装指導や遅刻指導を全職員で取り組んだ。遅刻については前年度より41件減少したが、欠席者数が増加している。 【次年度への課題】 ○より組織的な生徒指導を行うために生徒指導対応マニュアルを活用し、問題行動の未然防止に努める。また、服装指導や遅刻指導での職員間のさらなる共通理解を図ることや欠席者数の減少に取り組んでいきたい。</p> <p>特活部 ○学校行事においては、生徒会役員とのコミュニケーションを図ることで、円滑な運営が実現できた。商業教育を生かし、クラス主体の文化祭を実施できた。 【次年度への課題】 ○生徒会活動の定例化や各運動部の目標設定について取り組んでいきたい。</p> <p>環境整備部 ○ワックスがけ・モップ交換・全校清掃等、計画通りに行うことができた。 【次年度への課題】 ○自ら率先して清掃を行い、環境等に対する意識を向上させる指導方法を工夫したい。</p> <p>図書部 ○古書の廃棄ができた。生徒による図書だよりの発行ができた。新書購入のPRがうまくできた。 【次年度への課題】 ○図書当番の役割の徹底を図る。また、図書だよりの発行や新書のPR活動をさらに充実させたい。</p> <p>渉外部 ○PTA総会の出席率が47%となり、研修旅行や支部研修会の出席率も増加傾向にある。スクールバスの料金は値上げせず、据え置きのまま乗車できるようにできた。 【次年度の課題】 ○PTA活動の更なる活発化を目標とし、会員の参加者をさらに増やす工夫をしたい。</p> <p>保健厚生部 ○保健室の運営については、来室生徒の状態を把握し、処置等十分に対応することができた。内科・歯科の検診は全生徒が効率的に実施できた。また、性教育講話も予定通り実施することができた。火災だけでなく地震を想定した避難訓練を行ったり、危機管理マニュアルの見直しを行い災害に備える防災体制ができた。 【次年度の課題】 ○さらに学校の環境衛生および生徒の健康管理の向上に努めることである。</p> <p>情報管理部 ○情報資産のセキュリティについての手順書を作成し、校内にある情報資産の洗い出しを行った。また、ホームページのリニューアルを行うことができた。 【次年度の課題】 ○情報の保護に関してさらに注意を喚起し、セキュリティ確保に努めたい。</p>	<p>学力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分かる授業を推進し、学力の向上を図る。 ・授業時間の確保と授業内容の充実を目指す。 ・課題の提出や予習復習を徹底させて、家庭学習の習慣付けを行う。 ・授業観察等を通して、指導法を工夫改善し、指導力を高める。 ・学習意欲の低い者への組織的・計画的な指導を行う。 	
	<p>安定的な定員の確保に向けて、商業教育の活性化と広報活動に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得のための課外授業の実施に努める。 ・広報紙・ホームページ等で商業教育の広報活動を積極的に推進する。 ・地域と連携した商業教育の推進を行う。 ・効果的な体験入学を実施する。 ・メディアの情報に敏感に対応し、情報の共有化を図る。 	
	<p>進路指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する適切な資料や情報の提供、案内、説明、相談などのガイダンス機能の充実に努める。 ・キャリア教育を発達段階に応じて適切に実施することにより、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育てる。 ・進路実現100%を目指し、進学課外や教職員及び外部講師による模擬面接指導などの推進に努める。 ・ホームルーム活動における進路学習や進路相談の内容を吟味し、段階的、系統的な展開に努める。 ・教職員による求人確保及び開拓を推進する。 ・就業体験（インターンシップ）をとおして職業意識の啓発を図るとともに、進路選択を具体的に意識させる。 	
	<p>生徒指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立に努める。 ・整容指導の徹底を図る。 ・問題行動や事故の未然防止に努める。 ・特別指導の充実改善を図る。 	
	<p>特別教育活動の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会及びHR活動の活性化に努める。 ・部活動の活性化に努める。 ・文化祭等の学校行事の充実に努め、生徒の主体的参加を促す。 ・ボランティア活動を推進して、奉仕する喜びを知る。 	
	<p>安心・安全な学校づくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・心身ともに健康な生徒を育成する。 ・自主的に安全を守る能力を養う。 ・学校の環境衛生について適切な維持管理に努める。 	
	<p>コミュニケーション能力の育成及びビジネスマナーの修得に務める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの考えを口頭や文書で的確に表現する力を養う。 ・挨拶の励行 ・他人の言葉や意見に素直に耳を傾け、相手の気持ちを推察する能力を養う。 ・ビジネスマナーの徹底 	

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度への課題
教科	国語	授業に意欲的に取り組む態度を育てる。	ノートや課題集等を学期毎に（年間3回以上）点検することを通して、授業に集中して取り組む態度を育てる。	
		場に応じた適切な表現力を身に付ける。	授業時間の冒頭にスピーチを行い、相手が理解できるように表情や話し方を工夫することで、コミュニケーション能力の向上を図る。	
			俳句・短歌等への積極的な応募を通し、複数入選を目指しながら、自らの感性を磨き、相手に伝える表現力を育てる。	
	家庭学習の習慣化を図り、自発的な学習態度を育成する。	定期考査に向けて宿題を課したり、長期休業中（夏、冬）に課題集等を必修の宿題とするなどし、定期的な家庭学習の習慣を身に付けさせる。		
	社会	社会のニュース等を積極的に教材に取り込むことで、授業への関心・意欲を高めていく。	発問を増やすことで、生徒の興味・関心を引きつける授業展開を心がける。	
			視聴覚教材や新聞、インターネット等の資料を効果的に活用する。	
			生徒が授業に参加するような対話型の授業展開も試みてみる。毎授業ごとに、生徒が発表できるよう発問や展開を工夫する。	
		教科の基礎学力の定着をはかる。	授業内容の確認プリントやノートの点検等きめ細かな指導を行い、理解度の低い生徒に対するフォローを実施する。ノートの点検は、年3回以上行う。	
	数学	教科書の内容の定着を図り、発展的な事象も取り扱う。	より多くの事例を通し、体験的に理解できるように工夫する。	
			課題や学習ノート提出により、理解不足の生徒への対応を迅速に行う。	
			各定期考査で、発展的な事象も取り入れ、60%以上の習熟を目指す。	
	理科	基礎的な学習の向上を図る。	商業科・情報ビジネス科において、希望に応じて課外を実施する。	
		科学に対する意識・関心を高め、科学的思考力を身につける。	身近な物質や現象、最新の科学情報等を話題として提供し、科学に対して関心を持たせる。	
		物理実験室・化学実験室利用を高める。	教室内の授業以外に実験室・屋外を利用して実験・実習を行う。	
	体育	体力の向上と各種運動技能の習得に努める。	体力テストA及びBの割合を52.5%にする。	
		できる喜びを実感できる授業実践に努める。	卒業課題の合格率90%以上を目指す。	
		体育的行事とのタイアップをはかる授業を展開する。	クラスマッチ、体育祭等の学校行事に向けた意識付けにおいて、集団における協調性を身につけさせる。	
		よりよい体育授業の実践を図る。	担当者全員による学期1回以上の実技研修会を実施する。	
	保健	生涯にわたって必要な知識・技能の習得を図る。	最近話題のニュースを取り上げ、生徒の実生活に密着するよう、各場面での思考・判断能力を養う授業展開を図る。	
	英語	基礎学力の向上に努める。	単元ごとに小テストを実施し、基礎学力強化を目指す。	
			課題や学習ノート提出により、理解不足の生徒への対応を迅速に行う。	
資格取得のための指導に努める。		全商英検3級合格60%を目標に、上位の級の合格者も出るように合格対策課外を実施する。		
実践的コミュニケーション能力の向上に努める。		LL教室や音声機材を効果的に活用し、コミュニケーションに必要なリスニング能力を強化する。 学期に1回パフォーマンステストを実施し、実践的なコミュニケーション能力を育成する。		
家庭	基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力や態度を身につけさせる。	実験・実習を多く取り入れ、具体的にわかりやすい授業を展開する。		
		プリントやワーク点検等を通して、基礎的な知識を定着させる。		
	生徒の実態に応じた個別指導を充実させる。	実習授業において、個別指導や補講を行い、全員に作品完成の達成感を持たせる。		
家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活の質を向上させる。			
商業	学力の向上を図る。	学力向上のための検定試験全体で、60%以上の合格を目指す。そのための課外と平常時の課外を実施する。		
		科目ごとに授業研究を行い、工夫改善をして学力向上に努める。		
	商業教育の広報活動に努める。	商業教育の理解を深め、地域と連携した商業教育の推進を図るため体験入学や出前授業を実施する。		
	ビジネスにおける実践力の育成を図る。	総合実践をはじめ、すべての商業科目の中でビジネスマナー及びコミュニケーション能力を身につける工夫をし、育成する。		

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度への課題	
校務分掌	教務	学力の向上に努める。	わかる授業の展開と学習意欲の喚起をする。		
			指導力向上のために授業公開週間を設け、教師のスキルアップを図る。		
			学習意欲の低い者への組織的・計画的な指導を行う。		
		授業時間の確保に努める。	年休・出張の際の授業を原則振り替えとし、週当たりの自習時間を2時間以内とする。		
		教育課程の編成に努める。	本校の目指す学校像や生徒のための教育課程を編成する。		
		内規の検討をする。	本校の現状をふまえ、改正した内規の問題点を話し合う。		
		学業不振による転退学者の減少を目指す。	成績不振の生徒のために補習や課外を計画的に行う。		
		心の教育担当：奉仕の精神や社会貢献への関心を高め、社会連帯の精神を育てる。	結城特別支援学校との交流事業や地域イベント等におけるボランティア活動を推進し、社会に奉仕する心を育む。		
	ボランティア活動を全員に体験させ、豊かな心・地域に貢献する心を育む。	各ボランティア活動の事前・事後指導を確実にを行い、道徳の授業との連携を図る。			
	生徒指導	生徒全員に朝の挨拶をさせる	登校指導において、挨拶がかえってくるまで呼びかけていく。		
		服装・頭髪等について校則を守らせる	登校指導、授業、休み時間等において、違反を見逃さず、全職員で呼びかけていく。服装チェックカードを活用し、段階的指導を行い、校則違反をなくすよう努める。		
		遅刻者数を大幅に減らす	8時35分過ぎに昇降口と教室でダブルチェックをして遅刻の取り扱いを統一する。遅刻カードを活用して段階的な指導を行い、遅刻の防止に努める。		
		交通ルールを守らせ、事故を未然に防ぐ	校外指導を実施したり、普段からHR等で注意を呼びかけてもらう。また、自転車点検・交通安全講話、バイク実技講習会・四輪車安全運転教室等を実施する。		
		問題行動を未然に防ぐ	全職員による立哨指導および校内巡回で昼休みの生徒の動向を把握したり、服装検査や様々な集会等で、起こりうる問題行動等について注意を促す。		
		教育相談活動の充実	教師の指導に加えて、スクールカウンセラーによる生徒へのカウンセリング、保護者への指導・助言等により、教育相談体制の一層の充実化を図る。		
	特別活動	生徒会・HR活動の活性化につとめる。	生徒会役員を中心に、生徒会組織を生かした学校行事運営を図る。		
		部活動を活性化させ、年間を通して加入率40%の維持に努める。	各部活動の目標を設定させ、意欲的な取り組みを促す。		
			部活動の生徒を中心に、学校周辺の美化活動等に取り組む。		
		クラスマッチ、体育祭等の学校行事に対し、生徒の主体的参加を促す。	生徒間の協議を活発化させることで、学校行事の充実を図る。		
	進路指導	進路保障と生徒個人に対する進路指導を展開する。	生徒の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育てるキャリア教育を適切に実施する。		
			進路未決定者に対するきめ細かな指導をする。		
		進路実現100%を目指し、進学課外や教職員及び外部講師による模擬面接指導などの推進に努める。			
積極的に進路ガイダンスを行う。		進路に関する適切な資料や情報の提供、案内、説明、相談などのガイダンス機能の充実に努める。			
求人確保及び開拓を行う。		教職員による求人確保及び開拓を推進する。			
インターンシップをとおして職業意識の啓発を図る。	就業体験（インターンシップ）をとおして職業意識の啓発を図るとともに、進路選択を具体的に意識させる。				
環境整備	自ら率先して清掃を行う態度を養う。	教室のワックスがけ、モップ交換を定期的に年間4回行う。			
		清掃監督を毎日きちんと行い、生徒の美化意識の向上に努める。			
		学期毎の目標を設定して、環境衛生面での意識の向上を図る。			
	環境問題等に関する意識の向上を図る。	学校周辺の空き缶・空き瓶・ごみ等の清掃を年2回行い、教育環境に関心を持たせる。			
		ゴミの分別をきちんとさせ、環境問題にも関心を持たせる。			

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度への課題	
校務分掌	保健厚生	生徒の心身の健康増進を図る。	保健室の効果的な運営に努める。		
			諸検診の効果的な実施に努める。		
			専門家による性教育を実施する。		
		学校生活の安全教育に努める。	防火・防災避難訓練やAED講習会を実施するとともに、危機管理マニュアルの見直しを行う。		
		学習環境を整備する。	エアコン、ストーブの安全管理および生徒の健康管理に努める。		
		水質検査および室内環境検査等を実施する。			
	図書	情報センターとしての図書室環境を整備する。	わかりやすい蔵書の配置・整備に務め、図書室を利用しやすい環境を整備する。		
			原則として、長期休業中も開館し、生徒の図書室利用に対応する。		
		読書指導と読書の推進を図る。	1年生全員クラス毎に図書室利用のオリエンテーションを実施する。		
			新刊本をカラーコピーし、廊下・昇降口に掲示する。		
			職員に対する購入希望図書の調査回数を増やすとともに、随時生徒・職員の購入希望を受け付ける。		
		生徒発行の「図書室だより」で、新着図書案内を行う。			
渉外	PTA各種行事、会合への保護者の参加率を高め、家庭との連携を密にする。	PTA総会や授業参観への出席率が昨年度の47%以上になるよう工夫をする。			
		学校の教育活動を積極的に広報するため、PTA広報紙の充実をはかる。			
		会員相互の親睦をはかるため、保護者対象の研修旅行等を実施する。			
		PTA支部研修会への出席率が向上するよう声かけをする。			
	同窓会の組織強化に努める。	副会長、常任理事の増員を検討する。			
	スクールバスの円滑な運行をはかる。また、新たな運賃制度と消費税への対応を検討する。	スクールバス運行委員会において、常に問題点を改善していく。			
情報管理	HPを通して、教育活動の公表に努める。	昨年に引続き生徒専門委員会を活用し、ホームページの内容を随時更新し、情報を発信する。			
	HPの運営に伴うガイドラインの作成を行う。	県の運営要項に沿ったガイドラインの作成をする。			
	情報の保護・管理に努める。	手続きに沿った個人情報の保護を、適正に管理する。			
	有線LANに伴うシステムの整備に努める。	システムの変更の際に、異常が出ないように努める			
学年	一学年	基本的生活習慣の確立に努める。	欠席・遅刻・早退を極力しないよう努力させる。高校生にふさわしい服装頭髪で生活させる。		
		基礎学力を身につけさせ、授業環境の質の向上に努める。	朝ドリルの実施、チャイムでの着席、ケータイの授業開始前の提出、私語・居眠り等をなくす等の指導を徹底する。		
		資格取得に貪欲に取り組ませる。	1学年で取得すべき資格について、商業科の指導を学年をあげて支援する。		
		進路意識を高め、コミュニケーション能力の育成に努める。	ガイダンス及び面談の複数回の実施。挨拶の励行や言葉遣い等のマナーについてもその大切さを喚起していく。		
		充実した学校生活をつくらせる。	部活動への加入率と定着率を高め、学年行事も積極的に企画していく。		
	二学年	進路意識の高揚とコミュニケーション能力の育成に努める。	インターシップやオープンキャンパスへ自主的に参加するよう促す。外部講師のもとで面接指導を年5回以上実施する。		
		授業環境の質の向上に努める。	チャイムで始まりチャイムで終わることを意識づける。正しい挨拶や身だしなみ、携帯電話の提出を徹底する。授業中の私語はゼロにする。		
		情報ビジネス科の特徴を活かした指導を実現させる。	各種検定試験の合格率80%を実現する。商業科においても50%を実現する。		
		部活動での主体的活動を担う。	部活動加入率40%を維持し、学校のPR活動にも貢献する。		
		モラルを重んじ、規則を守るよう啓発していく。	鬼怒商生であることにプライドを持たせ、学校の「マナー」をくずさぬよう節度ある行動を取らせる。特別指導を年間一ケタとするために、家庭との連絡を密にし、生徒指導における小さなミスを見逃さず学年一丸となって早期発見・早期解決に努める。		
	三学年	社会人になることを意識したマナーの定着とコミュニケーション能力の向上をはかる	総合実践の授業を始め、全ての授業での挨拶指導や服装指導、言葉遣い等の指導をととし、最終学年であることを自覚したマナーの定着を図る。また、英語や国語、学年集会等でスピーチを取り入れ、人前で自分の考えを積極的に話す機会を与え、自信を持って人と接することができるようにする。		
		段階的なキャリア教育の集大成として、生徒全員が自分の意思で進路を決定し、実現させる。	1年次からの進路ガイダンス、就職・進学希望別学習、進路LHR等をととし、自己の適性を見極め、具体的な努力目標を持たせ、進路希望を実現させる。		
全員卒業を実現させる		最後まで気を抜かず、高校生としての自覚を持って学校生活を送るように指導する。また、日頃から面談や保護者との連携を密にし、いじめや生徒指導上の問題行動を事前に防ぎ、充実した学校生活を送らせる。			
商業科の生徒に、最後まで諦めず様々な資格を取得させる。		漢字検定試験3級合格者100名・全商1級3種目合格者、各クラス3名			
情報ビジネス科の生徒に高度資格を取得させる		全商1級3種目合格者を80% ITパスポート(情報処理技術者試験)5名、日商簿記検定試験2級10名、3級29名			

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分